

# 大学の世界展開力強化事業 構想概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(Ⅰ))

## 日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

### 【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

### 【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、ASEANサテライトキャンパスでの各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し500名及びASEAN側学生受け入れ500名、合計1,000名の交流を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ ASEAN各国トップ校との連携

ASEAN大学連合加盟校を中心とする各国トップ校(7か国16校)との連携。

### ○ 質保証のためのコンソーシアム運営体制

- (1) 構想実施担当者による運営委員会の定期的実施と総括会議の隔年実施。
- (2) 国際大学連盟(IAU)の外部評価(アドバイザーサービス)を活用。
- (3) 明治大学国際教育研究所で高等教育の質保証を研究。

### ○ 教育の質向上

- (1) 単位認定/学位授与に至るプロセスの明確化。
- (2) 国際標準での教員採用。
- (3) FDによる教員の資質向上。

(チュラロンコン大学との建築共同ワークショップ)



## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

(サテライトキャンパス入居ビル)



### ○ 国際共同教育コンソーシアムの形成

コンソーシアム大学とは従来から豊富な学生交流の実績。本構想の推進に関しても参加16校全てと協議中、うち10校からは意向確認書(LOI)も取り付け済み。

### ○ ASEANサテライトキャンパスの設置

バンコク中心部にサテライトキャンパスを設置(2013年春開設予定)。

### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

タイでのSEND実施について、現地中学・高校、日本語学校等と合意済み。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

既存短期プログラムによる送り出し強化、ASEAN側連携大学での短期プログラム新規開設、同連携大学への交換留学送り出しの強化、SENDプログラムの開始等により、日本人学生の派遣を拡大。

### ○ 外国人留学生の受け入れ

既存短期プログラムによる受け入れ強化、ASEANサテライトキャンパスでの授業開講、同サテライトキャンパスでの学生合同研究セミナー開催、本学夏期・冬期短期プログラムへの受け入れ枠拡大等により、外国人留学生の受け入れを拡大。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	50人	75人	100人	125人	150人
学生の受入	50人	75人	100人	125人	150人

注)申請時の計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 全学的推進体制の構築

構想推進のための専従者を配置して、在籍管理や情報提供の強化、日本人学生のサポート強化、受け入れ留学生の履修サポート強化などを実施。

### ○ 単位互換の促進

コンソーシアム内での単位相互認定を促進するため、国際的単位互換システム(ACTS/UCTS)を活用し、これに則った証明書の発行や読み替えを実施。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 国内外への情報提供方法・体制

本構想の取り組みや成果は、ホームページ、広報誌、国際シンポジウムなどを通して、多言語により国内外の大学や産業界に積極的に情報発信。

# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

## 日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、明治大学アセアンセンターでの各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し500名及びASEAN側学生受け入れ500名、合計1,000名の交流を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ 国際共同教育コンソーシアムの形成

AUNを中心としたASEAN協力大学全16大学と正式な協定書を締結完了。バンコクの明治大学アセアンセンターにて本年8月、国際合同シンポジウムを開催予定。質保証、今後のコンソーシアムのあり方などを議論。

### ○ 質保証のためのコンソーシアム運営体制

- (1) 構想実施担当者による運営委員会・総括会議の実施。
- (2) 明治大学国際教育研究所で高等教育の質保証を研究。

### ○ 教育の質向上

- (1) 単位認定/学位授与に至るプロセスの明確化、(2) 国際標準での教員採用、(3) FDIによる教員の資質向上。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

〈チュラロンコン大学との建築共同ワークショップ〉



### ○ 長短期様々な交流プログラムの実施

経営学研究科のダブルマスタープログラム、理工学研究科建築学専攻の国際ワークショップ、政治経済学部・情報コミュニケーション学部のタイ短期プログラム、農学部の国際農業理解プログラム、アテネオ・デ・マニラ大学学生への短期日本語プログラム、等。

### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

学部で実施の短期プログラムの一環として、SENDプログラムを今夏よりタイにて実施予定。TA(大学院生)の事前研修の実施。

### ○ 現地企業との連携

- タイに進出している日系企業(JAL、NTTなど)での学生インターンシップの実施。
- 日系企業とのグローバル人材育成シンポジウムの開催。

### ○ ASEAN理解科目群の設置

「東南アジア理解講座」(国際機関・日本ASEANセンターとの連携講座)などを開設。全学プログラムとして単位化。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

既存短期プログラムによるASEAN連携大学への送出し強化、連携大学での本学学生用短期プログラム新規開設(フィリピン、ベトナム)、連携大学への交換留学送出しの強化。

### ○ 外国人留学生の受け入れ

既存の短期プログラムによる受け入れ強化、アセアンセンターでの授業開講、同センターでの学生合同研究セミナー開催、本学夏期・冬期短期プログラムへの受け入れ枠拡大等により、外国人留学生の受け入れを拡大。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17人	75人	100人	125人	150人
学生の受入	10人	75人	100人	125人	150人

注) H24は実績、H25以降は計画

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 明治大学アセアンセンターの開設

2013年5月1日、バンコク中心部に明治大学アセアンセンターを開設。連携大学との短期プログラムでの利用のほか、日本語教育や遠隔授業を設置・拡大予定。

### ○ 全学的推進体制の構築

構想推進のための専従者を配置し、在籍管理や情報提供の強化、日本人学生のサポート強化、受け入れ留学生の履修サポート強化などを実施。

## ■ 教育内容の可視化・成果の普及

### ○ 国内外への情報提供方法・体制

本構想の取り組みや成果は、開設した専用ホームページ、広報誌、国際シンポジウムなどを通して、多言語により国内外の大学や産業界に積極的に情報発信。

〈明治大学アセアンセンター〉



# 大学の世界展開力強化事業 取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度・申請区分(I))

## 日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、本学海外教育拠点での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し500名及びASEAN側学生受け入れ500名、合計1,000名の交流を目指す。

### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

#### ○ ASEAN各国トップ校との連携

ASEAN大学連合加盟校を中心とする各国トップ校(7か国17校)との連携を深化。

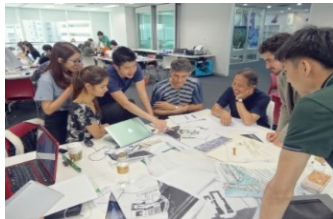
#### ○ 質保証のためのコンソーシアム運営体制

平成25年8月、コンソーシアム大学代表者による総括会議をバンコク・アセアンセンターにて開催。同センターを活用した今後の学術・学生交流のありかた等について意見交換。



〈第1回 アセアンコンソーシアム大学会議〉

### ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況



〈チュラロンコン大学との合同建築ワークショップをアセアンセンターで開催〉

#### ○ 明治大学アセアンセンター開設

平成25年5月、バンコクの協定校・シーナカリンウィロート大学内に開設。439㎡の専有スペースに教室やゼミ室、テレビ会議システム等、最新の設備を備え、新たな海外教育拠点として運用を開始。

#### ○ 各種学生派遣・受け入れプログラムの実施

長期の協定留学(交換留学)に加え、複数の学部・研究科がアセアンセンターを活用した短期プログラムを実施。(政治経済学部、情報コミュニケーション学部、農学部、大学院理工学研究科等) またタイに加え、デ・ラ・サール大学やアテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学(ベトナム)・ラオス国立大学(ラオス)等のアセアンコンソーシアム大学と短期プログラム等を開発し、学生交流を実施している。

#### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

学部の夏期短期プログラムと連携し、タイのシーナカリンウィロート大学付属高校でSEND活動を実施。短期プログラム参加学部生及び日本語教師を目指す国際日本学研究院院生が現地校の授業に加わり、日本語や日本語文化紹介活動を実施。平成26年度はタイに加え、ベトナムのハノイ国家大学外国語大学でのSEND実施を予定している。



〈タイの高校生とのSEND活動〉

### ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

#### ○ タイへの協定留学生(交換留学生)の大幅な増加

協定校の増加に伴い、平成25年度には9名の本学学生がタイの協定校へ長期留学を実施。授業履修の他にも、現地日系企業でのインターンシップや仏門への出家を経験するなど、「現場力」の醸成に資する異文化体験を経験した学生も。平成26年度は16名が留学見込み。

#### ○ 外国人留学生の受け入れプログラムの充実

平成26年5月、日本語教育センター主催の「日本語短期研修プログラム(ASEAN)」を3ヶ国5大学のコンソーシアム大学から、25人の留学生を受け入れ実施。日本語授業に加え、日本文化体験等で構成されており、本学の日本人学生が参加留学生を全面サポート。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17人	139人	110人	135人	160人
学生の受入	10人	86人	105人	130人	155人

注)H24・H25は実績、H26以降は計画

### ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

#### ○ アセアンセンターへの常駐者配置及び危機管理の実施

同センターには日本人及びタイ人の常駐者を配置し、日本人派遣学生へは生活支援・学習サポートを、タイ人の留学希望者へは留学情報の提供などを行っている。また昨今の政情不安に鑑み、現地の最新情報を収集し、関係教職員や在留学生に提供する等の危機管理も行っている。

#### ○ テレビ会議システムを活用した遠隔講義の実施

平成26年度よりアセアンセンターから本学・生田キャンパスの学生に向け、単位付与を伴う遠隔授業「東南アジア理解講座」を開講。今後、シーナカリンウィロート大学人文学部や泰日工業大学の学生を対象にした、日本発の遠隔授業を実施予定。

### ■ 教育内容の可視化・成果の普及

#### ○ 専用ホームページの開設

平成25年4月、FacebookなどSNSとの連携機能を備えた専用ホームページを開設し、本構想の内容や学生交流プログラムの様子を適時に発信する体制を構築。今後、英語やタイ語など複数言語化を検討中。

#### ○ タイ語版大学紹介パンフレット作成

既存の日本語及び英語版に加え、本構想の拠点であるアセアンセンターが所在するタイの学生を対象に、タイ語版の大学案内を作成し、日本留学フェア等で積極的に配布。



〈専用HPを開設〉

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、本学海外教育拠点での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し530名及びASEAN側学生受け入れ515名、合計1,045名の交流を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ ASEAN各国トップ校との連携

ASEAN大学連合加盟校を中心とする各国トップ校(7カ国17校)との連携を深化。単位取得を伴う学生交流を拡大。

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 各種派遣・受入プログラムの実施

長期の協定留学(交換留学)に加え、複数の学部・研究科がアセアンセンターを活用した短期プログラムを実施。(政治経済学部、情報コミュニケーション学部、農学部、大学院理工学研究科等)。またタイに加え、デ・ラ・サール大学やアテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)、ホーチミン市国家大学人文社会科学大学(ベトナム)、ラオス国立大学等のアセアンコンソーシアム大学と短期プログラム等を開発し、学生交流を実施している。

### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

学部で実施する夏期短期プログラムと連携し、協力校であるタイ(泰日工業大学)、ベトナム(ハノイ国家大学外国語大学)でSEND活動を実施。

### ○ 双方向での遠隔授業実施

協力校であるタイ・シーナカリンウィロート大学内に開設している本学アセアンセンターを活用し、本学・シーナカリンウィロート大学双方の学生に対し、いずれも単位付与を伴う遠隔授業を実施(「東南アジア理解講座」「Japan Today」)。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

協定校数の増加に伴い、平成26年度には12名の本学学生がタイの協定校へ長期留学。東南アジアで活動を展開する国際機関やタイ北部の少数民族集落での実務実習を経験し、異文化理解・適応能力を磨いた学生も。

### ○ 外国人留学生の受入れ

アセアンセンターによる、本学及び本事業で実施するプログラムの周知、またプログラムを利用して本事業協力校を訪れる本学学生数の増により、協力校学生の日本及び本学に対する興味が高まり、結果として本学が提供する短期プログラム及び中長期プログラムで多数の学生を受入。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17人	139人	127人	135人	160人
学生の受入	10人	86人	115人	130人	155人

注)H24-H26は実績、H27以降は計画



〈ベトナムからの学生受入プログラム〉



〈アセアンセンターにおける遠隔授業〉

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ アセアンセンターへの常駐者配置

同センターに日本人及びタイ人各1名の常駐者を配置し、タイへ赴く学生に対しては生活支援・学習サポートを、タイから本学への留学を希望する学生に対しては渡日前日本語研修や留学情報の提供を行っている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### ○ 専用ホームページの運用

本事業によるプログラム実施の様子などを学内外に広く発信するためにホームページを開設している。これまでの日本語版に加え、新たに英語版を立ち上げ、より広い範囲に情報を発信。



〈理工学研究科による合同ワークショップ〉

# 大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、本学海外教育拠点での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し530名及びASEAN側学生受け入れ515名、合計1,045名の交流を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ ASEAN各国トップ校との連携

ASEAN大学連合加盟校を中心とする各国トップ校(7カ国17校)との連携を深化。単位取得を伴う学生交流を拡大。



〈理工学研究科による合同ワークショップ〉

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 各種派遣・受入プログラムの実施

長期の協定留学(交換留学)に加え、複数の学部・研究科がアセアンセンターを活用した短期プログラムを実施(政治経済学部、情報コミュニケーション学部、農学部、大学院理工学研究科等)。またタイに加え、デ・ラ・サール大学やアテネオ・デ・マニラ大学(フィリピン)、ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科学大学(ベトナム)、ラオス国立大学、シンガポール国立大学等パートナー大学との連携でプログラムを開発・運営し、学生交流を実施している。

### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)の実施

学部で実施する夏期短期プログラムと連携し、本事業パートナー大学であるシーナカリンウィロート大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学、デ・ラ・サール大学(フィリピン)でSENDを実施。

### ○ 双方向での遠隔授業実施

パートナー校のひとつであるシーナカリンウィロート大学内に開設している本学アセアンセンターを活用し、本学・シーナカリンウィロート大学双方の学生に対し、いずれも単位付与を伴う遠隔授業を実施(「東南アジア理解講座」「Japan Today」)。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

ASEAN地域に対する関心・理解の高まりに伴い、派遣プログラム数が毎年増加しており、従って本事業に実施するプログラムに参加し同地域への留学を果たす本学学生が年々増加している。受入プログラムの数は15にのぼる。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17人	139人	127人	135人	160人
学生の受入	10人	86人	115人	111人	155人

注)H24-H27は実績、H28は計画

### ○ 外国人留学生の受入れ

アセアンセンターやHPIによるプログラムの周知、またプログラムを利用してパートナーを訪れる本学学生数の増により、協校校学生の日本及び本学に対する興味が高まり、結果として本学が提供する短期プログラム及び中長期プログラムで多数の学生を受け入れている。



〈ベトナムからの学生受入プログラム〉



〈アセアンセンターにおける遠隔授業〉

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ アセアンセンターへの常駐者配置

同センターに日本人及びタイ人各1名の常駐者を配置し、タイへ赴く学生に対しては生活支援・学習サポートを、タイから本学への留学を希望する学生に対しては渡日前日本語研修や留学情報の提供を行っている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開・成果の普及

### ○ 専用ホームページの運用

本事業によるプログラム実施成果を日・英語で学内外に広く発信するとともに、日本/ASEAN加盟国への留学意欲を喚起するべく、本事業により留学を果たした学生の「声」を多言語で発信。

# 大学の世界展開力強化事業 H28取組概要 明治大学

【構想の名称】(選定年度24年度(申請区分(I)))

日本ASEANリテラシーを重視した実務型リーダー育成プログラム

【プログラムの目的・養成する人材像】

たくましい「現場力」および日本と東南アジアに関するリテラシーを持って、将来、ビジネスパーソン、ジャーナリスト、建築家、NGO、公務員など多くの実務分野で国・地域を跨いだ懸け橋となりうる実務型リーダーを、日本とASEAN諸国の双方に育成。

【構想の概要】

国際共同コンソーシアム内での共同教育プログラム、本学海外教育拠点での各種プログラム等、長短期様々な教育プログラムを通じて、5年間で日本人送り出し530名及びASEAN側学生受け入れ515名、合計1,045名の交流を目指す。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ ASEAN各国トップ校との連携

本事業パートナー大学は、7カ国17大学に亘る。

2017年3月、本事業パートナー各大学及び在バンコクの教育関係者を本学アセアンセンターに招き、各大学の取組及び成果の報告と、交流のさらなる拡大に当たっての課題の共有をテーマとしたミーティングを実施。



ミーティングの様子

## ■ 交流プログラムの内容、今後の開始に向けた準備状況

### ○ 多層的な派遣・受入プログラムの展開

一般的な交換留学や短期の派遣・受入プログラムの実施に留まらず、学生のニーズに応じ多層的な教育プログラムを展開。

### ○ 日本語・日本文化交流(SEND)

学部で実施する夏期短期プログラムと連携し、本事業パートナー大学であるシーナカリンウィロート大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ外国語大学でSENDプログラムを実施。

### ○ 双方向の遠隔授業

アセアンセンターをシーナカリンウィロート大学内に設置している利点を生かし、本学・シーナカリンウィロート大学双方の学生に対し、いずれも単位付与を伴う遠隔授業を実施(「東南アジア理解講座」「Japan Today」)。



遠隔授業の様子

### ○ インターンシッププログラム

東南アジアで活動する企業、国際機関、非営利組織等において、参加学生が実務実習に従事。

### ○ 共同ワークショップ

アセアンセンターを会場に、チュラロンコン大学(タイ)、シンガポール国立大学と本学理工学研究科の学生が共同で建築・都市デザインに関する協働ワークショップを実施。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

学内のASEAN地域に対する関心・理解の高まりに伴い、派遣プログラム数が毎年増加するのに伴って、プログラムに参加して同地域への留学を果たす学生が年々増加している。派遣プログラム数は本事業開始当初から倍増した(2016年度は16)。

### ○ 外国人留学生の受入

HPIによるプログラム内容や留学体験談の広報、そして参加学生の「口コミ」が潜在的な留学希望者の意欲を喚起し、多くの本学留学希望者が本学への留学を果たした(2016年度は計141名)。

	H24	H25	H26	H27	H28
学生の派遣	17	139	127	135	180
学生の受入	10	86	115	111	141

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ アセアンセンターへの常駐者配置

センター用を含む日本人2名、タイ人1名を常駐させ、特にタイで実施するプログラムについて、パートナー校との共同ワークショップやシンポジウムを実施する際の会場提供といった物的側面、企画段階での実施先との調整、テレビ会議システムを使用した事前講義の実施、実施中の学生引率、及び実施後の学生へのアンケート調査といった人的側面の両方でサポートを行っている。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況

### 情報の公開・成果の普及

#### ○ 専用HPの運用

本事業によるプログラム実施成果を日・英語で学内外に広く発信するとともに、潜在的な留学希望者の日本/ASEAN加盟国への意欲を喚起するべく、本事業により留学を果たした学生の「声」を多言語で発信。